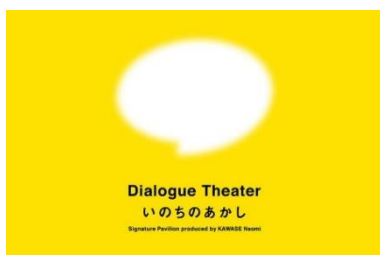


1. オリジナルラッピングトレインの特徴について



「Dialogue Theater - いのちのあかし -」
キービジュアル

車体を彩る同パビリオンのテーマカラーは「対話」「光」「注目」「希望」の象徴であり、吹き出し型のキービジュアルはコミュニケーションにおいて様々な情報に光を当てるスポットライトとして機能していることを表現しています。車内にはパビリオンの紹介に加え、テーマとなる「対話」を促す問いかけが掲示されています。

2. 河瀬直美テーマ事業プロデューサーについて



©LESLIE KEE

生まれ育った古都奈良を拠点に映画を創り続ける映画作家。一貫した「リアリティ」の追求はドキュメンタリー、フィクションの域を越え、世界各国の映画祭で受賞多数。カンヌ国際映画祭では『萌の朱雀（97）』が史上最年少で「カメラ・ドール」、『殞の森（07）』は「グランプリ」を受賞。2010年「なら国際映画祭」を旗揚げ。2020年東京オリンピックの公式記録映画総監督。2021年よりユネスコ親善大使。2022年にはフランス芸術文化勲章オフィシエを仏政府より授与される。2025年大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー、兼シニアアドバイザー。代表作に『2つ目の窓』『あん』『光』『朝が来る』など。映画監督の他、CM演出、ラジオDJ、エッセイ執筆、商品プロデュース等多岐に渡る表現活動を行っている。プライベートでは野菜やお米を作る一児の母。

3. 大阪・関西万博シグネチャーパビリオン「Dialogue Theater - いのちのあかし -」について



© Naomi Kawase, All Rights Reserved.

対話シアター（イメージ）

同パビリオンのコンセプトは、「毎日が、人類史上はじめての対話」です。対話を通じて人種、宗教、文化など互いの違いなどに触れ、「わたしの中のあなた、あなたの中のわたし」に出会う場、他者との対話により「分断」を乗り越えることを目指します。その場ではじめて出会う、時には国籍や人種、文化が異なるお互いに全く知らない人同士の対話が会期中、184日間展開されます。



©Naomi Kawase / SUO, All Rights Reserved.

パビリオンを訪れる人は、初めて出会う見知らぬ者同士がスクリーン越しに対話するのを目撃します。それは一期一会の対話で、立候補することもできます。会期中の対話はアーカイブされ、大阪・関西万博の会期終了後もさまざまな活用、展開、未来への提言となります。

4. 現在運行中の「大阪・関西万博オリジナルラッピングトレイン」について

- (1) 運行期間 2023年11月30日(木)から2025年10月13日(月)まで(予定)
- (2) 運行区間 主に近鉄奈良駅～神戸三宮駅間
主に大阪上本町駅～伊勢中川駅間
- (3) 対象列車 9820系 6両1編成
5820系 6両1編成



大阪・関西万博オリジナルラッピングトレイン

以上